

# 河内川

## 初級登山学校「沢登り」実技

2018年7月22日

L：廣瀬、坂野、ヤマメ、佐藤 Y、宮本、北原、鈴木 K（記）

暑い。気象庁が災害とまで言った猛暑が続いている。当日も晴天で、全国レベルの暑さを記録することもある佐久間も当然のごとく暑い。

その中で初級登山学校「沢登り」が行われた。初めての沢登り。早く水に入りたい。

駐車場から少し上流に歩いて下平集落から沢に入る・・・前に山座同定を行った。地図によると下平集落から見える尖った山は矢岳山と言うようだ。

沢は水が澄んでいてとても綺麗。入ってみると思ったより冷たくなく、ずっと浸かっているけど寒くならず心地よい。ちょうどいい水温ではないだろうか。

実際に歩き始めると沢は水面下の地形の状態、深さがつかみにくく歩きにくい。少し進んでさっそく滑って転倒し、水浸しになってしまったが、それはそれで楽しい。

先頭を歩く廣瀬さんはさすがに早く、どんどん先に行ってしまう。周りを見ても

沢の真ん中を行く人、河原付近を歩く人等、みんな思い思いのコースを歩いていく。全員が一列になって歩く登山とは違い、どの道を歩いてもよい。これが沢登りなのだろう。

上り始めてすぐに堰堤が見えてきた。これは問題なく左側から高巻く。

堰堤を越えて少し上ると右側から沢が流れてきた。地図上で沢が流れてくことは知っていたが、想像していたより小さく、見落とすところだった。

続けてもう一つ右側から沢が合流してきたところで、地図を使い現在位置を確認する。ここまでは順調だ。

右手に沢を見ながらさらに進んでいくと滝が出てくる。20m程はあるだろうか？大きい。ここまで大きい滝が佐久間にあるとは・・・

滝付近には適当に高巻ける場所が無かった為、やや下流に戻って右側から高巻く事になったが、先ほどの堰堤の時とは違い、これが大変だった。

急登を何十メートルも登る。沢も道なき道だと思ったが、まだ川という道がありその中を進んでいく。こちらは正真正銘の道なき道だ。

この先が通れるか否かを探りながら、それでも先頭の廣瀬さんはどンドンと登って行く。

危険な箇所が出てくるとロープを張って道を作っていく。みなさんととても手際が良くあつという間に道ができていった。

同じ道でもロープがあるのとないのでは安心感が全然違う。細引きはすぐに取り出せるようにしておかなくてはいけないとわかった。

また、山道では沢靴が滑り歩きにくい。登山靴のありがたさを実感した。

何とか沢に戻って遡上を続けるがこの先も滝（2m 程）の直登あり、ナメ滝あり、ゴルジュになっていて泳ぐところありと次々と景色が変わっていき、飽きさせない。これも沢登りの魅力なのだろう。ナメ滝の滑り台で滑り、滝壺で泳ぐ。老若男女関係なく子供のようにしゃいだ。

楽しくなってきた油断をしたわけではないのだが、懸垂下降をする場所で下降手順に気を取られていたら、ブレイデバイスを落としてしまった。

先日買ったばかりのデバイスが・・・と諦めかけたのだが、佐藤 Y さんが身軽に、スルスルと降りていき拾ってきてくださ

った。助かった。有難うございます。

無事に下降し進むと本日何度目かの滝があった。10m 程はあるだろうか。

この滝の高巻きでは北原さんが先導して道を切り開いていく。早い。どンドン進んでいく・・・

あれ？あなたも沢、今日が初めてですよ？そんな手慣れた様子で・・・

滝を越えた先にある広めの河原ではタープを張り、焚火をたいた。

ここでもみなさん動きが早くて無駄がない。あつという間にタープを張り終えたと思っていたら、横ではもう集めた枝から煙が上がっている。

こんな場所で半日くらいぼーっとしているものいい。釣った魚を焼いて食べたら最高だろう。

河原の先で川から上がり、初めての沢登りは終了。

非常に頼りになる諸先輩方のおかげで、とても楽しい沢登りになった。

浜松市にこんな場所があるなんて全く知らなかった。

クモの巣くらいでは驚かなくなった、普通の登山とは一味違うワイルドな体験でした。